

# 図書館だより

NO. 143 2010年 1月号  
(2010年1月1日発行)

はつかいち市民図書館  
電話(0829)20-0333  
廿日市市下平良 1-11-1

ホームページ <http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>

## 2010年 は 国民読書年



昨年6月、2010年を「国民読書年」と定めることが国会で決議されました。決議では、読書の街づくりの広がりやさまざまな読書に関する市民活動の活性化など、読書への意識を高めるため、国をあげてあらゆる努力を重ねることが宣言されています

### 国民読書年に関する決議 (全文)

文字・活字によって、人類はその英知を後世に伝えてきた。この豊穡で深遠な知的遺産を受け継ぎ、更に発展させ、心豊かな社会の実現につなげていくことは、今の世に生きる我々が負うべき重大な責務である。

しかし、近年我が国でも「活字離れ」と言われて久しく、年齢層を問わず、読書への興味が薄れていると言わざるを得ない。これが言語力、読解力の衰退や精神文明の変質の大きな要因の一つとなりつつあることは否定できない。

我々はこの事実を深刻なものと受け止め、読書の価値を見直し、意識の啓発を目指し、政府と協力してあらゆる活動を行ってきた。一九九九年に「子ども読書年に関する決議」を両院で採択、二〇〇一年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」を立法、さらに二〇〇五年には「文字・活字文化振興法」を制定し、具体的な施策の展開を推し進めてきた。

それらに呼応して「朝の十分間読書運動」の浸透、読書の街づくりの広がり、様々な読書に関する市民活動の活性化など、読書への国民の意識は再び高まりつつある。

この気運を更に高め、真に躍動的なものにしていくため、二〇一〇年を新たに「国民読書年」と定めたいと思う。これにより、政官民が協力し、国をあげてあらゆる努力を重ねることをここに宣言する。

### <今月の展示>

#### <さくらびあ展示>『日本名作映画を楽しむ』

1月14・15日(木・金)に、さくらびあで上映される「日本名作映画特集」にちなんで、なつかしい日本の名作映画を紹介した本を展示します。

#### <中央展示>『あらゆる人権を考える』

「だれもがいきいきと生活できる社会」にしていくために、あらゆる人権について、知る・学ぶ・考えることができる本を展示しています。

#### <児童展示>『干支の本・おおさむこさむ』

今年の干支、トラといえば朝鮮・韓国の民話によく登場しますが、インドとバングラデシュでは国獣にもなっています。トラの他にも寒い冬にちなんだ絵本を集めてみました。

#### <テーマ展示>『和のこころ』

新年を迎え、日本の伝統にふれる機会が多い1月。「和」に関する本を集めて展示します。

## ヤングアダルト新着情報

### 『こんな私が大嫌い!』

中村うさぎ/著 理論社 914/ナ  
自分の顔・性格が大嫌い。他の人と自分をくらべて「優越感」と「劣等感」の間でウロウロしてきた著者の人生は、びっくりすることも多いけど共感できることも多い。何十年も「自分嫌い」問題について考えてきた著者の言葉は、やさしく強く語りかけてきます。

### 『夢を持ってはいけません』

佐々木宏/著 国土社 159/サ  
「夢」は夢でおわった。そんな経験はありませんか?現実的でないから、いつまでたっても夢のまま。「夢」に「日付」を入れ「目標」にすることで、一歩踏み出す勇気がわいてきます。

### ~ヤングアダルトって?~

12歳~18歳の世代の人たちに対して使われている言葉で「若いおとな」という意味です。市民図書館では、中高生世代にオススメの本を集めた「ヤングアダルトコーナー」を設けています。最近では「15歳の寺子屋」「14歳の世渡り術」シリーズなど、ヤングアダルト世代に向けて、学校・受験・恋愛・社会のことなど、その世代が抱える迷いや悩みを、人生の先輩たちが心を込めて語った本も多数出版され、注目を集めています。

## 郷土資料紹介

### 廿日市市男女共同参画プラン

~ともに創る、人・まち・あした~  
廿日市市/編 H367.2/ハ 2005年

廿日市市では、男女がともに性別にかかわらずなく、家庭・地域・職場などのあらゆる分野に自分の意思で参画できる元気あるまちづくりを推進するために、「男女共同参画に関する基本計画(廿日市市男女共同参画プラン)」を策定しました。これは、国が、1999年に制定した「男女共同参画社会基本法」に基づいています。プランでは、「ともに創る、人・まち・あした」をキャッチフレーズに、女性と男性の、市民と行政のパートナーシップ(協働)を基本に、多様な生き方を認め合い、尊重し合えるまちづくりへの行動指針が示されています。今年度は、2005年度を初年度とし、目標年次を2014年度としているプランの折り返し年度にあたります。このプランが目標としている2014年には、男女があらゆる場面でいきいきと活躍している元気な廿日市市になっているのでしょうか?折り返し地点にたって、本書を読んでみることをおすすめします。

廿日市市に関する資料は、一番奥の「N」の棚にあります。ラベルに「H」という記号がついています。

## <今月の新着(一般書)>

図書館には1カ月に約600冊の新刊が入ります。その一部を紹介します。

- 『読書について』 ショウペンハウエル/著 PHP研究所 019/シ
- 『鑑真』 東野治之/著 岩波書店 S188.1/カ
- 『終着駅』 宮脇俊三/著 河出書房新社 291.0/ミ
- 『島 瀬戸内海をあるく第1集 1999-2002』 斎藤潤/著 みずのわ出版 318.6/サ
- 『対米交渉のすごい国 カナダ・メキシコ・NZに学ぶ』 櫻田大造/著 光文社 S319.5/サ
- 『観光 新しい地域づくり』 須田寛/著 学芸出版社 689/ス
- 『柿沼康二 書』 柿沼康二/著 東洋経済新報社 728.2/カ
- 『小松亮太とタンゴへ行こう』 小松亮太/著 旬報社 764.7/コ
- 『人気マラソン大会完全コースガイド』 成美堂出版編集部/編 成美堂出版 782.3/ニ
- 『あの作家の隠れた名作』 石原千秋/著 PHP研究所 S910.2/イ
- 『カレンダーにない日』 勝目梓/著 文芸春秋 F/カ
- 『信長と信忠』 鈴木輝一郎/著 毎日新聞社 F/ス
- 『人類博物館の死体』 ジャック・ミリエス/著 早川書房 B953/ミ
- 『人生の色気』 吉井由吉/著 新潮社 914.6/フ

新刊

# ことものほん

## 『かしこいモリー』

ウォルター・デ・ラ・メア再話 エロール・ル・カイン絵  
中川千尋訳 ほるぷ出版 E/ル

たきぎ拾いに森へ入った3姉妹は道に迷ってしまった。たどりついた家には、人食いの大男がいて、あやうく食べられそうになるが、末娘のモリーが知恵を働かせて大男の家から逃げ出し…。詩人による再話と、華麗でユーモラスな絵で描かれている。賢くて勇敢な女の子が活躍するイギリスの昔話。

## 『未来をつくる君たちへ—司馬遼太郎作品からのメッセージ—』

立花隆 関川夏央 松本健一 NHK出版 159/ミ

歴史小説家の司馬遼太郎氏の作品『二十世紀に生きる君たちへ』から緒方洪庵、『坂の上の雲』から正岡子規、『菜の花の沖』から高田屋嘉兵衛をとりあげています。明治維新をはさんだ激動の時代の人々を題材にし、小中学生に向けて、二十一世紀を生きるヒントを届けています。

## 『くりかえし—しぜんのなかのかたち』

よつもとあきらさく 福音館書店 E/3

まるがならんで重なってできるきれいなもようは何？ そう、金魚のうろこやパイナップル。では、さんかくが並ぶとどんなもよう？ ヒントはみかんを輪切りにしてみると…。まるやさんかくのくりかえしのできるもようをあてるクイズ形式の本。くりかえしもようが身近にたくさんあることがわかります。

## 『氷の上のボーツマン』

ベンソー・ブルードラ作 上田真而子訳  
ヴェルナー・クレムケ絵 岩波書店 943/フ

冬の港。ウーヴェたち三人組は、船長の子犬ボーツマンを連れ出し入り江へ。探検家きどりで進んでいくと、突然氷が割れて、ボーツマンが浮氷の上に取り残された。流されていく子犬を見て茫然とするウーヴェ。彼は必死に知恵を絞り、勇敢に子犬を助けようとする。不安と希望が入り混じった少年の気持ちがよく表現されていて、一気に読める。

## ミニブックトーク

### まどみちおさんは、100歳の詩人です。

「そうさん そうさん おはながながいのね そうよ かあさんもながいのよ」でお馴染みのまどみちおさん。1909年山口県徳山市（現・周南市）に生まれました。父の仕事のため台湾で暮らし、台北工業学校土木科を卒業。その後、台湾総督府に務めながら雑誌「コドモノクニ」「綴方倶楽部」に童謡や詩を投稿し、北原白秋の教えを受けたそうです。戦後帰国し、子どもの雑誌の編集に携わりました。1951年発表の童謡「そうさん」をはじめ「ふしぎなポケット」「やぎさんゆうびん」は広く親しまれています。1959年からは出版社を退職し、創作活動に専念しました。

第一詩集『てんぷらぴりぴり』で野間児童文芸賞受賞。以後たくさんの詩集・絵本を出版。『まど・みちお全詩集』は芸術選奨文部大臣賞、産経児童出版文化大賞、路傍の石文学賞特別賞に輝いています。また、皇后美智子様選・訳の『THE ANIMALS』（すえもりブックス）は、日米同時出版されました。1994年には、日本人で初めて国際アンデルセン賞作家賞を受賞、1998年には朝日賞を受賞されています。

瀬田貞二氏は『幼い子の文学』（中央公論新社）の中で、詩「にし」の感覚的な美しさは俳句のようだといい、次に「かいだん」ととりあげています。急にぱっと抽象的な世界につなげる、詩の次元の切り換えにまどさんの詩の面白さが出てくると書いています。

『すべての時間を花束にして』は、92歳の時書かれた自伝エッセイで、童謡や詩が多くの人に愛され続けてきたまどさんを知ることができます。最新刊『逃げの一手』は100歳を記念する詩集です。その中でまどさんは、〈山川草木すべての中に命があり、人間は一匹に過ぎない。その中で私は、詩の中に逃げることに、臆病な自分から逃げることで自分を生かしてきた。〉そして、〈マンネリズムで書きたくない。ささやかでも新発見を書かなくてはいけない。〉と語っています。

『そうさん』まど・みちお／詩・東貞美／絵 国土社 911/ア

『てんぷらぴりぴり』まど・みちお 大日本図書 911/ア

『まど・みちお全詩集』伊藤栄治・編 理論社 911/ア

『すべての時間を花束にして』まどみちお著 柏原怜子聞き書き 佼成出版社 911.5/ア

『100歳詩集-逃げの一手』まど・みちお 小学館 911.5/ア

その他詩集はたくさんあります。どうぞ、手に取ってお楽しみください。

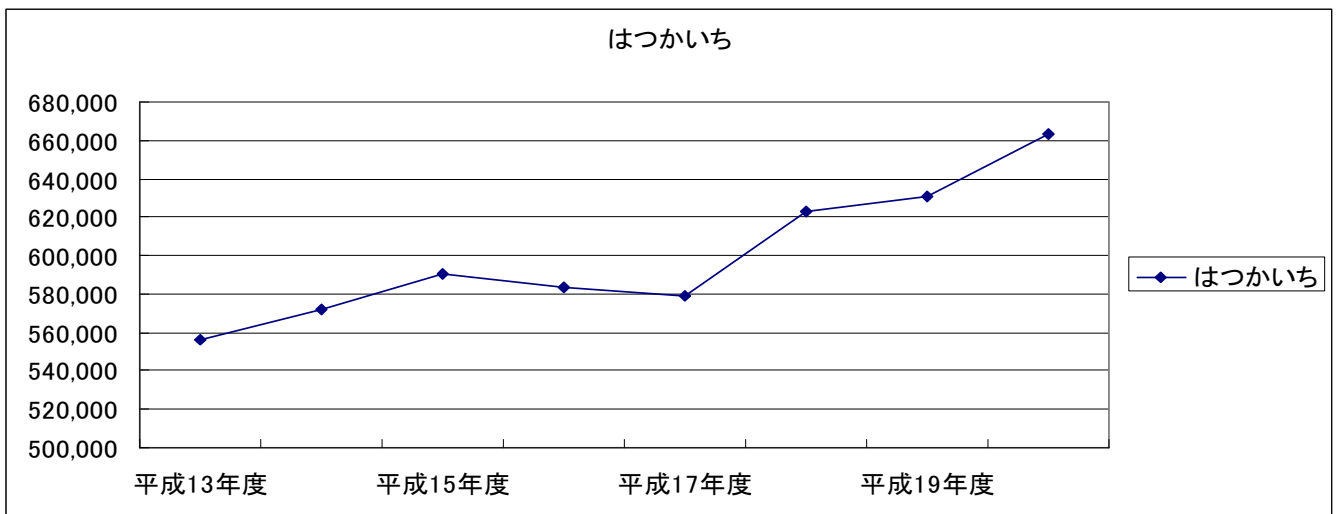
# 貸 出 冊 数

はつかいち市民図書館の蔵書数は、約21万冊あります。年々、貸出冊数も伸びています。平成21（2009）年度の貸出冊数は、現時点で平成20年度を上回るペースで貸出されています。

<個人・団体貸出冊数（はつかいち市民図書館分）>

平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
556,547	571,977	590,488	583,369	578,744	623,279	630,818	663,545

\*市民図書館要覧より抜粋



平成20年度、市内3館の個人・団体貸出冊数の合計は、891,091冊でした。

## 1月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1 休館	2 休館
3 休館	4 休館	5	6	7	8	9 ☆
10	11	12 休館	13	14	15 ◎	16 ■
17	18 休館	19	20	21	22	23 ☆
24 /	25 休館	26	27	28	29	30
31						

◎ちいさいこのためのおはなし会

【対象】乳幼児

【時間】1回目 11時～

2回目 11時30分～

※整理券を相談窓口で配布します

☆おはなし会

【対象】幼児～小学校低学年

【時間】11時～

■ストーリーテリングのおはなし会

【対象】幼児～

【時間】11時～

